

令和7年度 探究を支えるグループファシリテート力協働開発プログラム 実施要項

1 目 的

教職員支援機構では、「令和の日本型学校教育」を担う新たな教職員の学びの姿の実現に向けて、参加者の気づきを醸成し、探究を後押しすることを目指した探究型研修を実施している。参加者の「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、参加者一人一人が自身の教育実践の特徴や考えの枠組み、自己の在り方への気づきを得ることが重要である。こうした気づきが豊かに生まれることで、参加者は研修を自分事として捉え、主体的に参画するようになる。そのため、参加者を「主語」とする研修づくりが求められている。また、研修を通して新たに知識・スキルを知ることや豊かな気づきが醸成されることは、参加者にとって、それらを起点として自身の実践を見直し、発展させていくための契機となり得る。

探究型研修においては、参加者がじっくり時間をかけて自らの実践を語り、傾聴し合うことを通じて自己の在り方への気づきが生まれることを大切にしている。このため、教職員支援機構では、探究型研修において各グループに基本的に1名のファシリテーター（以下、グループファシリテーターという。）を配置し、参加者一人一人に気づきが生まれ、長期的に探究が展開されるよう、安心・安全な場づくりや、丁寧な傾聴や見取りから気づきを共有し、学び合いを支えることに努めている。対話と内省を中心とする探究型研修では、グループファシリテーターの果たす役割が高まっており、参加者のより深い学びを促すグループファシリテートの在り方が学びの深まりを左右する重要な要素となっているため、グループファシリテート力について、実践もあわせて高めることを目的とする。

2 主 催 独立行政法人教職員支援機構

3 テーマ・期間・実施方法・標準定員

コース等	プログラム	期間	実施方法	標準定員
事前説明会	プログラム概要の説明 事前課題等の説明 振り返り会等への参加(任意)の紹介	令和7年7月1日(火)	オンライン	-
A コース	基礎編：グループファシリテートの在り方について探究するための基本的事項等を共有する共通プログラム	令和7年8月4日(月) ～8月5日(火)	対面※1	25名
	実践編：探究型中央研修（探究的な学び1年コース）のファシリテーターとして実践を通して探究するプログラム※5	令和7年8月6日(水) ～8月8日(金)	対面	

コース等	プログラム	期間	実施方法	標準定員
B コース	基礎編：グループファシリテートの在り方について探究するための基本的事項等を共有する共通プログラム	令和7年8月4日(月) ～8月5日(火)	対面※1	12名
	実践編：特定課題探究研修（生徒支援）ファシリテーターとして実践を通して探究するプログラム	令和7年8月20日(水) ～8月21日(木)	オンライン	
		令和7年12月11日(木)		
C コース	基礎編：グループファシリテートの在り方について探究するための基本的事項等を共有する共通プログラム	令和7年8月4日(月) ～8月5日(火)	対面※1	12名
	実践編：特定課題探究研修（働き方改革）のファシリテーターとして実践を通して探究するプログラム	令和7年8月25日(月)	オンライン	
		令和7年12月8日(月)		

※1 基礎編：グループファシリテートの在り方について探究するための基本的事項等を共有する共通プログラムは対面を基本とする。ただし、B,C コース参加者に限り、オンライン参加も可能とする。

※2 参加者は、A,B,C いずれかのコースに参加する。

※3 本研修はインターバル開催であり、参加者はコース内の全日程参加を前提とする。

※4 事前説明会（オンライン・60分程度を予定）では、研修の主旨および事前課題等の説明と、質疑応答・簡単な協議の時間を設ける予定である。当日参加できない参加者は録画を視聴する。

※5 探究型中央研修（探究的な学び1年コース）は11月、2月にも研修が行われる。参加者の希望により、ファシリテーターとして参加（任意）することも可能とする。

4 実施方法・会場等 ※各コースの実施方法は「3 テーマ・期間・実施方法・標準定員」を参照

(1) 対面

会 場：独立行政法人教職員支援機構

〒305-0802 茨城県つくば市立原3番地

(2) オンライン

Web 会議システムを用いた同時双方向通信によるリアルタイム・オンライン研修

（「Zoom ミーティング」（株）Zoom ビデオコミュニケーションズ）を使用）

配信元：独立行政法人教職員支援機構

〒305-0802 茨城県つくば市立原3番地

5 参加者

(1) 参加資格

以下の者であって、今後、教育実践において各地域の中核としての活躍が期待される者

ア 都道府県・指定都市・中核市教育委員会及び教育センターの研修担当主事等、教職大学院関係者

イ 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教諭、主幹教

論、指導教諭、研修主任等

(2) 推薦手続・推薦期限

推薦期限は、令和7年6月5日(木)とする。

推薦する機関においては、候補者を取りまとめて「研修システム」により推薦を行う。ただし、中核市教育委員会においては、[様式1]により都道府県教育委員会に連絡し、都道府県教育委員会が「研修システム」により推薦を行う。

(3) 参加者の決定

推薦する機関からの推薦に基づき、教職員支援機構が決定し通知する。ただし、標準定員を超過する場合は、参加者数を調整することがある。そのため、「研修システム」により推薦を行う際に、候補者毎に推薦順位、コースの希望順位を入力すること。

6 プログラム内容・方法

プログラム内容については、別紙のとおりとする。

本プログラムは、探究的な学びが持続的に展開できるよう、グループファシリテーターを含めた参加者同士の学び合いを支えるグループファシリテートの在り方を実践もあわせて考える機会を提供するものである。

参加者は、各コースの探究型研修にグループファシリテーターとして参加し、グループファシリテートの在り方を協働的に考えていくこととなる。

なお、プログラム後に別に企画する振り返り会や上記の各コース以外の研修へのファシリテーターの参加も可能とする。

7 その他

(1) 本研修では、「Google Workspace」を利用する。利用に際し、Google アカウントや簡易マニュアルは当機構で作成し、参加者決定時に連絡する。

(2) 実施方法が対面の場合は、原則として教職員支援機構の宿泊施設を利用するものとする。

(3) 当機構は、スムーズで効果的な演習の展開、ファイル交換等の効率化、資料等のペーパーレス化、ICT 機器の活用能力の向上等を同時に実現することを目的とし、BYOD (Bring Your Own Device) を導入しているため、実施方法が対面の場合は、参加者が使い慣れたパソコン等を持参すること。

(4) 実施方法がオンラインの場合は、Web 会議サービス「Zoom ミーティング」((株) Zoom ビデオコミュニケーションズ) を用いて同時双方向通信を行う。参加に当たっては、当該ソフトウェアのインストールや安定したインターネット通信環境の確保の他、相互に音声・映像をやりとりする協議等ができるよう、音声マイク・Web カメラ等の必要機器を備えた端末を、1 人 1 台準備すること。

(5) 実施方法がオンラインの場合は、参加者が研修に専念できるよう、推薦者には適切な参加環境及び研修時間の確保等、特段の配慮をお願いする。

- (6) 本研修の参加に際し、特別な配慮が必要な者（障害、持病等）を推薦する場合は、事前に当機構に相談すること。